しいこともなく、気楽に行けるものだなと感じました。

国民の意見とかが反映されるというよりも、立候補した人とか、後援した人たちのためだけにあるという感じです。そういう人たちの考えで選挙が行われ、私たちが勝手にその人たちに票を入れて、その人たちが自分のやりたい政治をやっている。自分たちの意見が反映されているとは思えず、はっきり言って関心がありません。

選挙については、わからないことがたくさんあるというのが漠然としたイメージです。

なぜ、棄権を

若い人が棄権することについては、一票の重さを感じられないことに原因があるように思います。実際に、自分の持つ一票が政治や行政の中でどう作用しているのか分からなくて、自分が投票した議員の人が何をしているのかを知る機会はほとんどありません。自分が投票したことで何が変わるのかと考えていくと、何も変わらないということになってしまう。そもそも政治や選挙に興味がない人は、選挙に行こうという気すらなくなってしまっているのではないでしょうか。

最大の理由は、若年層の政治や選挙に対する関心の低さが挙げられると思います。特に若い年齢層は、自分の興味のないことは知ろうとしないという傾向が強くて、選挙と自分との関わりがどう政治に活かされていくかとか、投票することにどういう意味があるのかということを知ろうとしない。この知ろうとしないことが、結局は投票に行かないことに結びつくと思います。

投票日が日曜日であること。やっぱり、働いている若い人は、日曜日は遊びたいので、投票に行きません。不在者投票もあるけれど、やり方が分からない。

もっと簡単に、投票できたらいいなと思います。例えば、インターネットとかを使って、家にいても投票できる仕組みとか、近くのコンビニで投票できるとか、そうすればもっと投票率は上がると思います。

大勢の友だちと行こうと思っても投票所がそれぞれ決まっていて、一緒に行くことができない。自分の好きな場所で投票ができるようになればいいなと思います。

立候補者は、宣伝カーとかで名前だけを連呼しているだけ。投票所に行っても、名前は貼り出してあるだけ。どのような考えを持っているのかが伝わってこないし、全くわからないので、関心も興味もなくなってしまいます。

学生の場合は、単に自分には関係がないからというレベルで投票に行かない人がほとんどです。親の庇護のもとにあって、社会がどのように変わっても自分の身に降りかかってこないので、それで選挙に対する関心が低いのだと思います。

政治というものが複雑で、理解しがたく、興味がわかず、つまらない。一人ぐらい棄権しても何も変わらないという意識があるということが投票率の低下につながっていると思います。

若者が根本的に選挙の内容自体を知らないと思います。参議院や衆議院がどういうもので、どういうことをしているか、わからない。だから、わかりやすくなれば、もっと投票率が上がるのではないでしょうか。